

2015年度 運動会 報告書

◎今年は幼児クラスの人数がさらに増加したため、午前と午後の2部制にし、午前は幼児の部、午後は児童および中高等部の運動会に分けた。

これは人数に対して体育館が手狭になってしまったことや、午前中に幼児クラスの競技が集中することから、児童部が待ちくたびれて退屈してしまうことなどの問題を回避するためであった。結果としてこのような形を取ったことは正解であったと思う。

ただ、午前中は児童クラスを通常授業にしたことで、週当番や清掃のために動く人員が必要となったこと、また、児童クラスの先生方にも負担をかけてしまったので、来年はこの点を留意してより良い方法を決めたい。今のところ、午前の児童の授業はなしにして、幼児部に兄弟がいる生徒は体育館で保護者と共に観戦し、そうでない生徒は午後からの運動会に出席するという方法がいいのではないかという意見が出ている。

また、運動会係への負担が大幅に減り、やり易かったとの声を多々聞いたので、これも2部制にしてよかった点ではないだろうか。いっぽうで役員やリーダーは早朝から夕方近くまで動きっぱなしだったせいか、例年よりもかなり疲れてしまった。来年も2部制にするのであれば、幼児部と児童部の運動会リーダーをそれぞれ分ければ改善すると思う。

各競技について

玉入れ：開会式からの移動を去年同様、こまかい所まで担当者が決めておいてくれたおかげでスムーズに競技開始できた。幼児1にとっては玉入れが難しく、模範演技を見たあとでも理解できない子供も多いようだった。教師が参加するほうがいいのか悪いのか、来年はこの点を再度見直したい。保護者対戦の結果は加算されない方向だったが、子供達の応援や結果を喜ぶ姿を見ると加算しないわけには行かなくなってしまった。成人クラスの参加も盛り上がったのでよかった。

親子競技：例年と同じく、急ぐあまりに子供を足の上に乗せず、ただ抱っこしてぶら下がったような格好で走ったり、目隠し後に3回まわらず走り出してしまう保護者（特に父親）が多かったので、来年は模範演技の際に英語の説明も入れた方がよいかもしい。

せんべい競争：これも去年同様、手づくりのせんべい棒が貧弱なせいもあり、力いっぱい引っ張るあまり、洗濯バサミやヒモが壊れることが何度もあった。今年は強度を高めつつもりだったが、まだ足りなかったようだ。幼児1は去年先生からいただいたアドバイスに基づいて床に置いて拾う方法を取ったが、おかげでスムーズに行ったように思う。

今年は幼児のせんべい競争は午前最後の競技に設定し、せんべいを一旦回収せずそのまま渡すことにしたので、泣き出す子供がいなくてよかった。

障害物競走：例年の障害物以外にもマットででんぐり返りをするか、あるいはオタマにボールを入れて走るかなど、事前にいろいろと考えたが、結局一番問題が多かった最後の縄跳び走りを省くのみにした。リレーがなくなった分、高学年には2周目は障害無しで徒競走するという形を取ったが、一回一回障害を取り除くという作業は結構めんどろで、ボランティアで入ってもらっていたシート持ちの保護者の方達がかなり忙しく働いてもらわなくてはならない形となった。午後は特に係の人数が少なかったこともあり、係外の保護者の助けがたくさん必要だった。

大縄跳び：毎年この大縄回しを担当してもらっていた男性ふたりが今年は運動会係ではなかったのに、快く引き受けてくださったおかげでこの競技ができた。ただ、大縄まわしはかなり体力仕事だと思うので、せめて交代制にするとかして、4人くらい回す役を確保したいところ。

綱引き：やはり一番盛り上がりて応援するほうも楽しい競技。今年は時間の関係で場所替えせずに一回勝負となった。ひとつ気になったのは、参加クラスではない小さな子供が綱を引っ張りたがり、場内に入って来ることが何度かあり危険だったので、保護者の監視を徹底したい。

その他：準備や時間の都合上、新しい競技は導入せず、基本的には午前も午後も今までどおりの競技になってしまったので、かわり映えがなくて面白くないという声も聞いた。

全体としてはどの学年もほぼ同じ数の種目に参加できたので、去年のように手持ち無沙汰になる時間が多くて退屈してしまうという問題も生じなかったようだ。

怪我の防止や整列時間の問題などを考慮して、今年はリレーを種目から省いたが、子供達からは残念だと言う声も上がった。バトンやゼッケンなどは保管してあるので、来年から復活させることも可能。

成人クラスの参加競技は、時間の余裕があればもっと増やせたはずだったが、待たせてしまったこともあり、せっかく来てくれた成人の生徒さん達が途中で帰ってしまうなど、大変失礼してしまい申し訳なかった。玉入れだけでなく綱引きなども、成人クラスの生徒のために早い時間に取り入れても面白いかもしれない。

その他 よかった点、悪かった点

役員とセキュリティの方のお陰で、例年よく起こっていた『集合時間を過ぎても体育館が開かず外で長い時間待たされる』ということがなく、かなり早くから体育館を開けてもらえていたので、準備に余裕を持てた。

役員がカレッジ側と交渉し大量のマットを貸してもらえたお陰で、保護者用の敷物として利用することができた。床に直接座るのは冷えるので、乳幼児やお年寄り連れの家族に好評だった。

反対に、ステージ上にカレッジの用具がたくさん置かれたままの状態になっていたため、放送や音響などのスペースがかなり窮屈になってしまった。これは以前にも同様のケースが起こったことがあるので、来年は前もって確認しておきたいところ。

人手不足のせいもあり、今年も放送担当はじめ玉入れのポール持ち、障害物競走の道具持ちなどを係外の方々から多数スカウトして協力してもらったが、みなさん快く引き受けてくださって非常に助かった。

一部の未就学児がその保護者の監督不行き届きのせいか、運動会係が何度も子供に注意したり、追いかけたり、競技場の外に連れ出したりと、想定外のことが多かった。

また、注意事項にも書いてあるにもかかわらず毎年起こることとして、写真係以外の保護者が何度も場内で写真撮影を行うのも気になった。競技がスムーズに運ぶよう、保護者への喚起を徹底したいところ。

2部制にしたおかげで昼食後の片付けが早く済み、ゴミの量もいつもより少なくてよかった。例年なら午後の競技が始まる前に子供達が走り回るのを辞めさせることにかかなりの時間がかかっていたが、今年は比較的スムーズに再開できたのも2部制にしたから改善された点だと思う。

全体的に、午前も午後も予定時間ほぼぴったりに開会と閉会ができたので、とてもよかった。

今年はハロウィン当日に運動会が開催されたこともあって、去年好評だったポッキーを景品にしたところ、エンジェルシーフードの山城さんが再び多数寄付してくださったので大変ありがたかった。

景品については、あくまでも運動会という行事に参加した生徒への参加賞とみなし、欠席者へは追って渡さないという方針にしていたが、後日やむなく欠席したので欲しいと言う声もあり、係が教室をまわって先生に渡すことになった。今後どのようにしていくか来年検討する必要がある。余った景品は、昨年同様、絆ジャポンへの寄付に回すことにした。

運動会係にはセンターの運動会を初めて体験する人が多数いた上に、今年は乳幼児のいる保護者が多く、各家庭でご家族の方々の協力が必要となったにもかかわらず、早朝から頑張って業務に集中してくださったのでありがたかった。

係内では男手が足りず、男性役員や役員のご主人、また旧運動会係にも協力してもらい、力仕事を依頼した。来年度は是非、あらかじめ運動会当日に参加できる男性の係を確保したい。